

目次

第27回研究発表大会のお知らせ	1p
大会会場案内	2p
大会日程表	4p
企画セッション	6p
ハンズオンおよびチュートリアルセッション	7p
ポスターセッション	8p
第14回大会優秀発表賞・第7回ポスターセッション賞	10p

機器展示	11p
IAGシンポジウム報告	11p
受賞報告	11p
委員会報告	12p
分科会報告	12p
伊理正夫先生を追悼する	13p
学会からのお知らせ	13p

第27回研究発表大会のお知らせ

大会実行委員会 委員長 井上 亮

第27回地理情報システム学会研究発表大会は、2018年10月19~21日（金～日）に、首都大学東京 南大沢キャンパスにて開催いたします。本年度も通常の研究発表（講演、ポスター）に加え、シンポジウム・ハンズオンセッションなど多彩な企画を予定しております。皆様、奮ってのご参加をお待ちしております。

本誌には、プログラムの概要を掲載いたします。詳細は、学会ホームページをご覧下さい。なお、プログラムは学会当日まで随時更新の可能性があります。ご参加の際は必ず最新の情報をご確認ください。

なお、平成27年度より、講演発表・ポスター発表の発表者（第一著者）には、測量CPD学習プログラムのポイントが付与されます。大会で発表した場合、(1)「GIS上級技術者」への申請や、(2)「測量系CPD学習プログラム」への登録が可能です。希望者は大会当日、受付までお申し出下さい。

2018年10月19日（金）

場所：首都大学東京 南大沢キャンパス 講堂小ホール

- この会場で開催されるセッションは、入場無料です。
- 受付開始は、午後2時30分を予定しています。

2018年10月20日・21日（土・日）

場所：首都大学東京 南大沢キャンパス

国際交流会館・11号館

- 受付開始時間は、両日ともに午前8時30分です。特に20日朝は、受付が混雑いたします。受付を通らずに会場に入る事前登録のご利用をお勧めいたします。
- 日曜日は、学食は営業していません。キャンパス近隣のレストランをご利用ください。

- 各口頭発表の持ち時間は発表15分、質疑5分です。時間厳守をお願いいたします。PCは発表者各自でお持ちください。貸出はありません。必要な方は、アダプターもご用意ください。また、講演者は、セッション開始前に会場にて機器動作確認をお済ませ下さい。
- ポスターセッションは2日間を通じて実施し、両日の昼にコアタイムを設けております。大会いざれかの日に発表者はポスターの前で質疑応答にご対応下さい。また、不在時用に感想を寄せていただくメモや回収用袋等の設置もお勧めします。ポスターのサイズは、A0に収まる範囲でお願いします。

懇親会

会場：国際交流会館内レストラン Lever son Verre

日時：2018年10月20日（土）

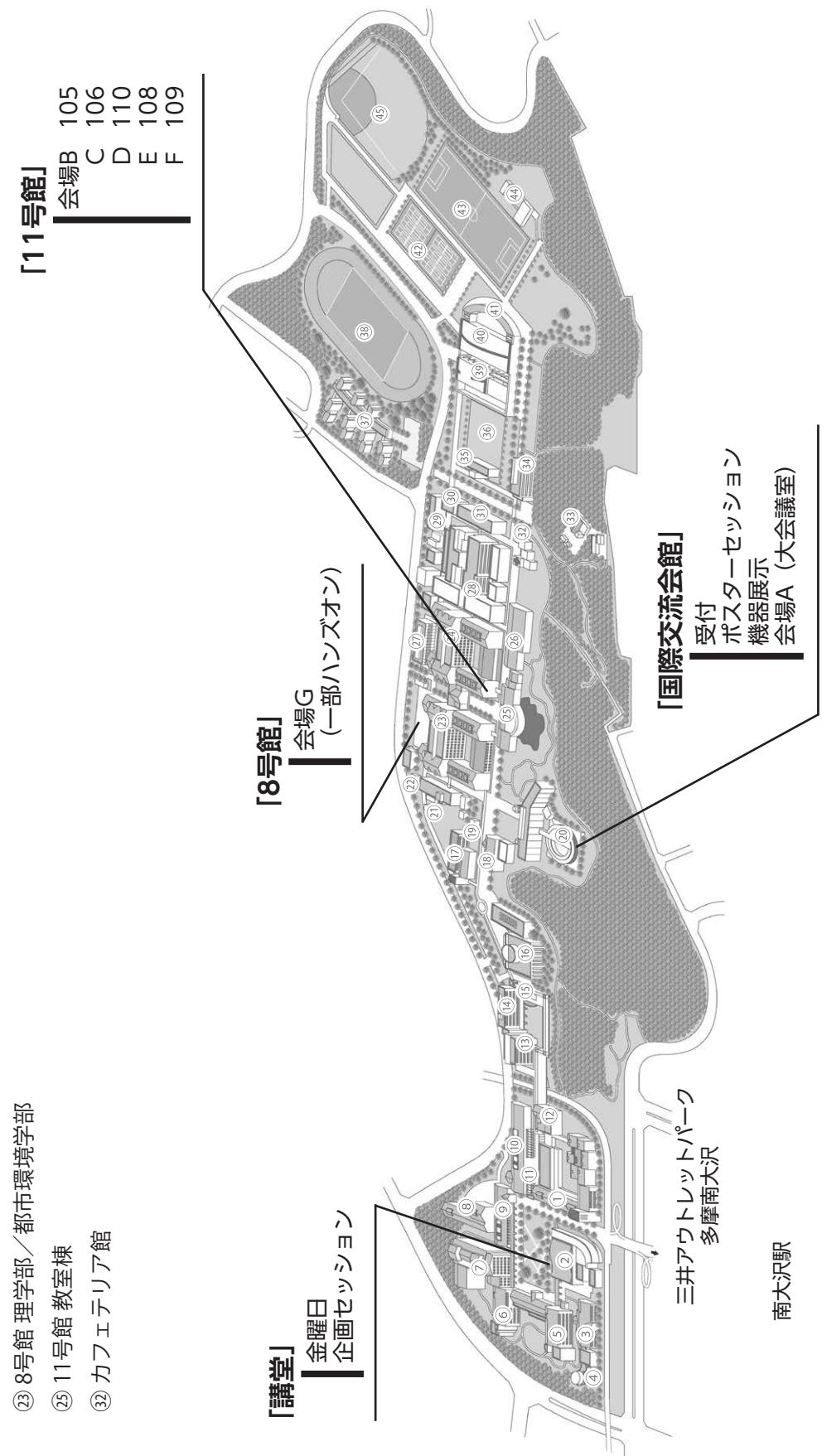
午後6時10分～午後8時

参加費 ※企画セッションのみの参加は無料です

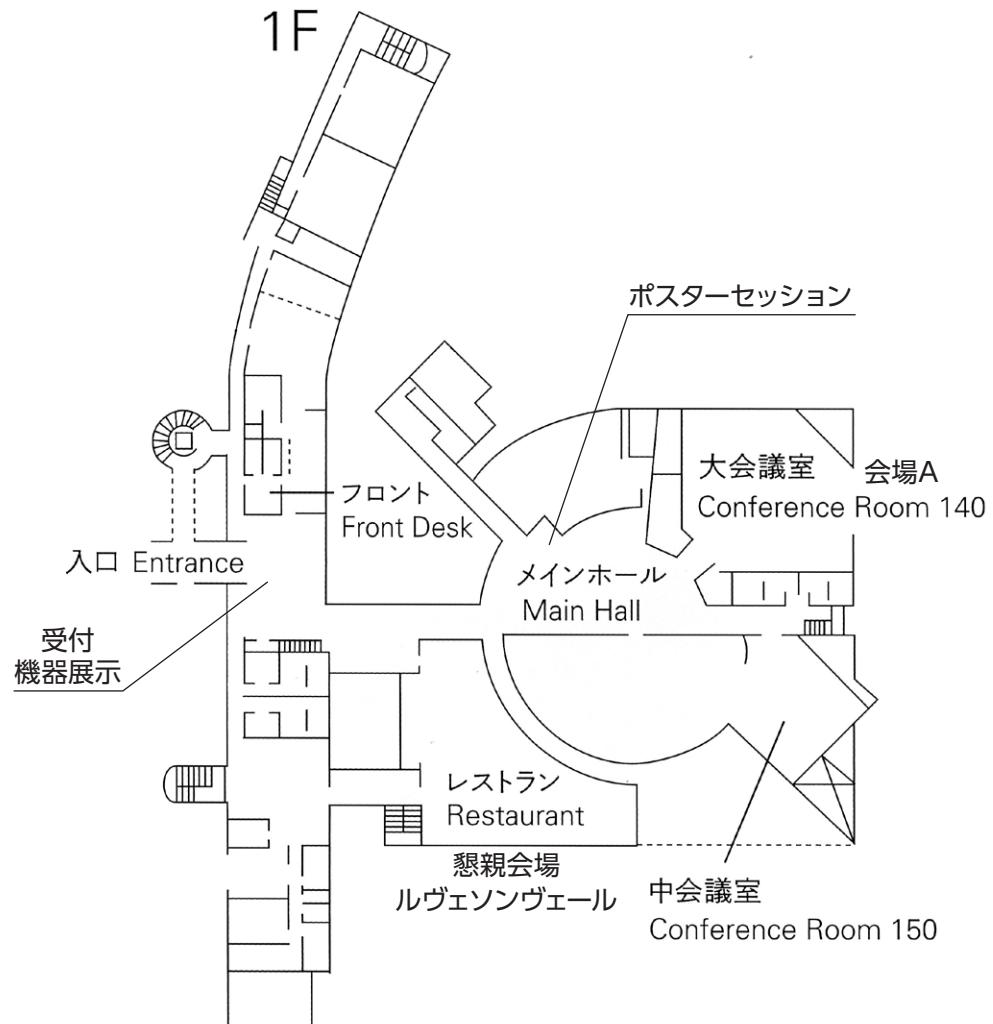
- 学術大会（講演論文集のCD-ROM代金を含む）
正会員/賛助会員枠の参加者：
事前登録4,000円（当日受付6,000円）
学生会員：事前登録3,000円（当日受付4,000円）
非会員（一般および大学生以上）：
事前登録7,000円（当日受付8,000円）
高校生以下、70歳以上：
無料（必ず年齢を証明するものをご提示下さい）
- 懇親会
正会員/賛助会員：
事前登録5,000円（当日受付6,000円）
学生会員：事前登録4,500円（当日受付6,000円）

キャンパスマップ

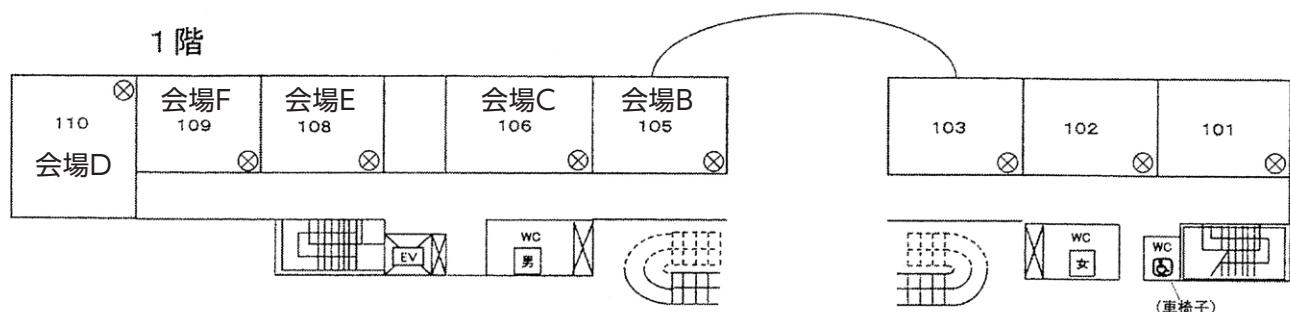
- ② 講堂
- ⑬ 生協購買書籍部
- ⑮ 生協食堂
- ⑯ 国際交流会館
- ⑭ 8号館 理学部／都市環境学部
- ⑮ 11号館 教室棟
- ⑯ カフェテリア館



国際交流会館



11号館



第27回研究発表大会 大会日程表

※ 企画セッション（灰色で塗られているセッション）： 参加費無料

第1日目 10月19日（金）

14:30 開場

15:00-18:30	【企画セッション】 第12回マイクロジオデータ研究会「超スマート自治体（Government5.0）～産官学の 空間情報を結集したEBPMの実現に向けて～」 企画：秋山祐樹
-------------	---

19:00 閉場

第2日目 10月20日（土）

	会場A 国際交流会館 大会議室	会場B 11号館 105教室	会場C 11号館 106教室	会場D 11号館 110教室	会場E 11号館 108教室	会場F 11号館 109教室	会場G 8号館 834教室	ポスター 国際交流 会館
9:00 - 10:40	【企画セッション】 空間データ提供します！CSIS共同研究による空間データ利用 企画：相尚寿	【9:20開始】 防災（情報・システム）	【9:20開始】 安心・安全	【9:20開始】 不動産（1）	【ハンズオン】 QGISハンズオン 企画：大伴真吾			ポスター 展示
11:00 - 12:40		防災（被害把握・予測）	移動（歩行）	不動産（2）				
昼休み								コア タイム
13:20 - 14:00								
14:00 - 15:40	【企画セッション】 「全国小地域別将来人口推計システム」とその応用 企画：岡部篤行・井上孝	防災（降雨・水害）	移動（利便性・快適性）	教育	【チュートリアル】 mapillary & OpenStreetMap によるマイクロマッピング 企画：西村雄一郎			ポスター 展示
16:00 - 18:00	【企画セッション】 2018年度初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事例表彰 企画：貞広幸雄	自治体	地域分析	観光・景観				
18:10 - 20:00	懇親会 @ 国際交流会館内レストラン Lever son Verre							

第3日目 10月21日 (日)

	会場 A 国際交流会館 大会議室	会場 B 11号館 105教室	会場 C 11号館 106教室	会場 D 11号館 110教室	会場 E 11号館 108教室	会場 F 11号館 109教室	会場 G 8号館 834教室	ポスター 国際交流 会館
9:00 - 11:00	【企画セッション】 オープン×シチズンサイエンスによる市民協働と次のステップに向けて 企画:瀬戸 寿一	【9:40開始】 防災・減災(避難)	空間解析	土地利用	【ハンズオン】 わかりやすい地図の作り方 企画:桐村 喬			ポスター展示
11:00 - 11:40								コアタイム
昼休み								
12:20 - 14:00	【企画セッション】 自治体GISの動向を語る 企画:浅野 和仁	移動履歴分析	歴史	環境	【ハンズオン】 SfM写真測量によるマッピング 企画:内山 庄一郎	【企画セッション】 IoT×GISによるウォーターネクサスの見える化 企画:厳 綱林		ポスターセッション賞投票締切:13:00
14:20 - 16:00	【企画セッション】 国際地図学会議(ICC)への日本からの貢献ーICC2019東京大会の展望ー 企画:若林 芳樹	【企画セッション】 学生フリーテーマ発表会 企画:相 尚寿	データ・システム	産業立地		【企画セッション】 平成30年7月豪雨災害対応とGIS 企画:畠山 満則	【ハンズオン】 Pythonを使って作業の効率化を図ろう! 企画:土田 雅代	ポスター展示
16:10 - 16:30	閉会式 (優秀発表賞の表彰を含む)							

企画セッション

※企画セッションは、参加費無料、事前申込不要です

【第 12 回マイクロジオデータ研究会

「超スマート自治体 (Government5.0)

～産官学の空間情報を結集した EBPM の実現に向けて～】

オーガナイザー：秋山祐樹

19 日（金）15：00～18：30／講堂

我々は 2011 年に「マイクロジオデータ研究会」を発足させ、マイクロジオデータ（MGD）の普及と利活用について産官学の有識者を中心に議論を行って来ました。MGD とは位置情報や時間情報を持つ時空間的に高精細な（例えば建物や人単位）データや統計の総称のことを言います。MGD は既存の各種統計・空間データでは実現し得なかった、時空間的にきめ細やかな分析や計画支援等への利活用が期待されています。

近年、MGD 研究会は MGD に関連した研究だけでなく、「実社会での活用」にフォーカスを当てた活動にシフトしつつあります。そこで第 12 回となります今回は、産官学が持つ多様な空間情報を結集し EBPM（Evidence Based Policy Making）を実現し、地域の継続的なスマート化の実現を目指す「超スマート自治体 (Government5.0)」の実現に向けた取り組みについて、産学官の有識者の皆様からご講演頂きます。さらに同活動を進めていく中で現在、「何がどこまで出来るのか」、「何がどうして出来ないのか」そして今後「何をするべきか」ということをご紹介頂き、超スマート自治体実現への課題と今後取り組むべき活動について議論を深めたいと考えています。

【空間データ、提供します！

CSIS 共同研究による空間データ利用】

オーガナイザー：相尚寿

20 日（土）9：00～10：40／国際交流会館大会議室

東京大学空間情報科学研究センター(CSIS)は、共同利用・共同研究拠点「空間情報科学研究拠点」として、研究用の様々な空間データの提供とそれを利活用した研究の推進をミッションとする。CSIS ではそのミッションの中核を担うサービスとして共同研究を募集しており、オンラインで申請からデータ入手まで完了するシステムを運用している。

本セッションでは、CSIS 共同研究による研究用空間データ利用の仕組みやオンラインでの申請方法を説明するとともに、実際に利用可能なデータを紹介する。また、CSIS 共同研究により空間データを利用している研究者から具体的なデータ利活用の方法や研究成果について話題提供する。取り上げるデータセットとしては「人の流れデータ」「道路ネットワークデータ」「マイクロジオデータ」「航空レーザ測量データ」を予定する。

【「全国小地域別将来人口推計システム」とその応用】

オーガナイザー：岡部篤行・井上孝

20 日（土）14：00～15：40／国際交流会館大会議室

本企画の共同代表の一人である井上は、2015 年に標記システムの試用版、2016 年に同正規版を公開した。このシステムは、全国 21.7 万あまりの小地域（町丁・字）を単位とする、長期（2015～2060 年）にわたる日本全国の将来推計人口（男女 5 歳階級別）を、初めてウェブ上に公開したものである。

このシステムの利用者は、推計人口をもとに算出された、人口密度等のさまざまな人口統計に関するコロプレスマップを閲覧でき、また、それらの人口を csv ファイルとしてダウンロードできる。周知のとおり、これまで将来人口推計で主に扱われてきたのは全国または自治体単位のデータであるが、このシステム上に公開されたデータは、それらを量的に圧倒しているので、これまで論じることのできなかった様々な視点から日本の将来人口の動向を知ることができる。そこで本企画では、標記システムの概要を紹介したあと、それを応用した 3～4 本程度の研究成果を報告し、最後にフロアを交えた全体討議を行いたいと考える。

【2018 年度 初等中等教育における

GIS を活用した授業に係る優良事例表彰】

オーガナイザー：貞広幸雄（教育委員会主催）

20 日（土）16：00～18：00／国際交流会館大会議室

2018 年度初等中等教育における GIS を活用した授業について、優良な事例を選定し、その表彰式を行う。

【オープン x シチズンサイエンスによる市民協働と

次のステップに向けて】

オーガナイザー：瀬戸寿一（FOSS4G 分科会主催）

21 日（日）9：00～11：00／国際交流会館大会議室

科学研究活動や科学政策に関する市民の役割の重要性について、古くは 1980 年代頃から「市民科学 (Citizen Science)」という語が重要視され始め、近年のオープンデータ政策やそれを担う ICT を駆使したコミュニティ（シビックテック）の関わり、さらには GIS 分野でも OpenStreetMap 等の台頭に伴い、市民が直接データ共有に関与する「ボランタリー地理情報 (VGI)」概念の登場なども背景に、オープンサイエンスや市民との共創型研究に展開しつつあります。

2014 年の企画セッション「オープンな GIS はどこまで可能か？」以来起こってきた様々な活動のうち、オープンサイエンスに位置づけされる実践型研究の進展を背景に、オープン・シチズンサイエンス領域で実践的に活動されている方をお招きして、現状の到達点や今後に向けた課題について伺います。オープン・シチズンサイエンス領域の中で地理空間情報が有用であるのか？さらには、参加者に対する科学教育への配慮ややりがい搾取問題など、実践的活動を進展させ科学に結びつける上での課題について議論します。

＜予定登壇者＞

- 瀬戸寿一（東京大学空間情報科学研究センター／FOSS4G 分科会）「趣旨説明」
- 林和弘（文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター）「オープン・シチズンサイエンスの動向—Japan Open Science Summit 2018 等からみた概観（仮）」
- 近藤康久（総合地球環境学研究所）「チームサイエンスにおける知識融合ツールとしての GIS の役割」
- 大澤剛士（首都大学東京都市環境学部）「搾取的でないコミュニティベースドな地図作成を考える-大学教育における挑戦-」

- 西村雄一郎（奈良女子大学研究院人文科学系）「大学教育における地理オープンデータ作成活動への参加とその現実」
- 金杉洋（東京大学地球観測データ統融合連携研究機構）：「登山者行動の計測と課題」

【自治体 GIS の動向を語る】

オーガナイザー：浅野和仁（自治体分科会主催）

21 日（日）12：20～14：00／国際交流会館大会議室

セッションの前半は、2013 年から昨年度まで自治体分科会が取組んできた G 空間 EXPO・Geo エデュケーションプログラムでのワークショップの実施に関わっていただいた関係者をパネラーに迎えて、これまでの活動を総括するとともに、自治体の GIS 活用に及ぼした影響や、今後の自治体 GIS の課題や方向性について議論していただきます。

セッションの後半は、自治体 GIS におけるパーソナルデータの活用について考えます。自治体分科会幹事からの話題提供の後、参加者の皆さんとグループディスカッションを行い課題の共有や、取組むべき課題の抽出を行いたいと思います。

自治体 GIS の更なる活用を求めておられる皆さんのご参加をお待ちしています。

【IoT×GIS によるウォーターネクサスの見える化】

オーガナイザー：巖網林（IoT と GIS 分科会主催）

21 日（日）12：20～14：00／11 号館 109

平成 30 年 7 月豪雨が西日本に甚大な被害をもたらし、気候変動、人口減少、社会インフラの老朽化が重なることによる災害の恐ろしさを思い知らせられた。国も自治体も治水対策の見直しへ動いているが、持続可能な管理には治水に限らない総合的政策と技術のイノベーションが求められる。

本セッションはネクサスの視点から水管管理の複雑性を捉え、IoT×GIS によって水環境の見える化を行い、リアルタイムに情報収集、インフラ管理、サービスの提供を可能にする空間融合のプラットフォームを検討する。

【国際地図学会議（ICC）への日本からの貢献

—ICC2019 東京大会の展望—

オーガナイザー：若林芳樹

21 日（日）14：20～16：00／国際交流会館大会議室

2019 年 7 月に東京で開催される第 29 回国際地図学会議（ICC2019）は、日本の GIS・地図学の成果を世界にアピールするショーケースになると同時に、海外の地図・GIS 研究者と交流する絶好の機会になることが期待される。

このセッションでは、1980 年の東京大会を含めた過去の ICC 大会を振り返りながら、来年の東京大会に日本がどのように貢献できるのかを展望する。これにより、GIS 研究と地図学との関係を再確認し、国内のみならず海外に向けた新たな連携を構築する契機としたい。

とりあげる主要な話題は、以下の通りである。

- 国際地図学会（ICA）と ICC
- 1980 年 ICC 東京大会の遺産
- ICA 専門部会の活動からみた世界の地図学の動向
- ICC2019 東京大会の展望：地図学と地理情報科学の融合

【学生フリーテーマ発表会】

オーガナイザー：相尚寿（若手分科会主催）

21 日（日）14：20～16：00／11 号館 105

一般に学会などの学術発表では類似した研究テーマの発表がセッションとして集約されます。類似した興味を持つ参加者同士で意見交換が行える利点はありますが、パラレルセッション形式で進行する大会では異分野の発表に触れ、新しいデータや分析法に出会う可能性が限られてしまいます。

本セッションでは、特定の分野を定めず、広く研究発表を募集することで、異分野間での情報共有を目指しています。発表者は現役学生（学部生・大学院生）に限定し、事前に募集した発表概要をもとに若手分科会で投票を行い、得票数の多い内容について口頭発表と質疑応答の機会を設けます。

発表者、聴講者とともに自分の分野とは異なる内容に多く触れるため、新たなデータや分析法に出会う場になると期待しています。

なお、聴講者については制限を設けていないため、学生以外の研究者、実務者の方々も積極的にご参加をご検討いただきたいと思います。

【平成 30 年 7 月豪雨災害対応と GIS】

オーガナイザー：畠山満則（防災 GIS 分科会主催）

21 日（日）14：20～16：00／11 号館 109

2018 年（平成 30 年）6 月 28 日から 7 月 8 日頃にかけて、西日本を中心に北海道や中部地方など全国的に広い範囲で記録された台風 7 号および梅雨前線等の影響による集中豪雨

（平成 30 年 7 月豪雨）は、広範囲で記録的な豪雨となり、200 人以上の死者・行方不明者を出す巨大災害となった。地理情報システム学会では防災 GIS 分科会が中心となり、災害支援活動を行ったが、同時に複数の地域で同様の水害・土砂災害が発生するという未曾有の災害に課題は多く残った。今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震での災害対応にも、大きな教訓を残すであろう平成 30 年 7 月豪雨の災害対応の課題と解決策について、支援活動関係者を中心に議論を行う。

【ハンズオンおよびチュートリアルセッション】

※大会参加費が必要（有料）です

※事前申込をお勧めします

ハンズオン【QGIS ハンズオン】

オーガナイザー：大伴真吾

（朝日航洋株式会社/FOSS4G 分科会）

20 日（土）9：00～10：40／11 号館 108

世界的に普及しているオープンソースデスクトップ GIS QGIS の基本的な操作を中心としたハンズオンを行います。これから GIS を始める方、この機会に QGIS を使ってみたい方、あるいは、QGIS の可能性を探りたい方にお薦めです。

使用する QGIS のバージョンは 3.2 を予定しておりますが、当日までに新しい製品がリリースされていればそれを使用いたします。

なお、このハンズオン時の説明は Windows 版 QGIS を使用いたします。その他の OS の QGIS のサポートができない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

参加を希望される方は、テキストを準備する都合で、事前申込を行った上で、当日は QGIS をインストールしたパソコンの持参をお願いいたします。会場の席に空きがある場合には、飛び入り参加も歓迎いたします。

申込およびお問合せ先： shingo-ootomo@aeroasahi.co.jp

チュートリアル

【mapillary&OpenStreetMap によるマイクロマッピング】

オーガナイザー：西村雄一郎

（奈良女子大学/OSGeo 財団日本支部/OSMFJ）

20 日（土）14：00～18：00／11 号館 108

オープンな地理情報に対する社会的な必要性が高まる中、それらを市民が自ら作成する VGI（ボランタリーな地理情報）への注目が高まっている。この企画では、前回の GIS 学会のハンズオンセッション行った「OpenStreetMap マッピングパーティ in 宮城大学」の続編として、オープンなストリートビュー作成プロジェクトである mapillary と VGI の世界的・中核的プロジェクトのひとつである OpenStreetMap を連携させ、双方のデータ作成・編集を行うハンズオンを実施する。特に、「マイクロマッピング」という一般的な地図では描かれることの少ないミクロスケールの地物の地理情報の作成を目指したマッピングパーティを実施し、障がい者の移動にとって必要な情報の収集を行う。

申込およびお問合せ先： nissy_yu@cc.nara-wu.ac.jp

ハンズオン【わかりやすい地図の作り方】

オーガナイザー：桐村喬（若手分科会/教育委員会）

21 日（日）9：00～11：00／11 号館 108

誰でも手軽に GIS を使えるようになります。様々な分野の研究論文で、GIS で作った地図が使われています。また、論文だけでなく、日常生活の様々な場面でも GIS で作った地図を見る機会が増えています。GIS の操作手順を間違わなければ地図が作れます。どんなふうに表現すれば地理情報を適切に表現でき、意図を正確に伝えることができるのか、といった技術や知識は、地図に関する専門的な教育を受けないとなかなか身に付けることはできません。

このセッションでは、GIS を使う上で陥りがちなよくある失敗に注目しながら、わかりやすく、適切な地図の作り方について紹介し、地図表現に関する基礎知識を身に付けることを目標にします。取り扱う内容は、地域・用途に応じた投影法の選び方や階級区分図での色・ハッチの使い方、カルトグラムの活用法などで、これらに留意しながら実際に GIS ソフトで地図を作っています。なお、利用する GIS ソフトは ArcGIS または QGIS です（どちらでも参加できます）。

申込先： <https://goo.gl/forms/cpQVEQA3MvdtKgb83>

お問合せ先： t-kirimura@kogakkan-u.ac.jp

必要なもの：

ArcGIS (ArcMap) または QGIS がインストールされた PC

※ESRI ジャパン株式会社のご協力により、ArcGIS については、講習会用の一時的な無料ライセンスもご用意できます。

※電源、インターネット接続については会場で用意します。

定員： 20 名

※GIS の基本操作を習得済みの方（非会員の方も参加可能）

ハンズオン【SfM 写真測量によるマッピング】

オーガナイザー：内山庄一郎（防災科学技術研究所）

21 日（日）12：20～14：00／11 号館 108

SfM (Structure from Motion) 写真測量とは複数の写真から被写体の形状を復元する技術です。特に、無人航空機（ドローン）による撮影と調和的です。SfM 写真測量により、オルソモザイク画像（写真地図）や DSM（数値表面モデル）を作成することができます。ハンズオンでは、技術の概要と使いこなすコツを解説し、写真の撮影からオルソモザイク画像の出力までの最も基礎的な一連の作業を行います。

申込およびお問合せ先： uchiyama@bosai.go.jp

当日持参するもの：

ノート PC (Win/mac) と電源アダプター

ハンズオン【Python を使って作業の効率化を図ろう！】

オーガナイザー：土田雅代（ESRI ジャパン株式会社）

講師：福井智康、丸山誠（ESRI ジャパン株式会社）

21 日（日）14：20～16：00／8 号館 834

Python を利用することで、ArcGIS の GUI 上で行っている反復的な作業をプログラムで自動化することができます。Python を使用して ArcGIS でどんなことができるか知りたい方、また、python のアドインを作成してみませんか？

当日は、ArcGIS がインストールされた首都大学東京の PC 教室を利用します。筆記用具のみお持ちください。

申込およびお問合せ先： masayo_tsuchida@esrij.com

ポスターセッション

10 月 20 日（土）13：20～14：00/ポスター掲示時間 9：00～18：00

10 月 21 日（日）11：00～11：40/ポスター掲示時間 9：00～16：00

投票締切： 10 月 21 日（日）13：00

※ 投票箱は受付に設置しております。

1	亜極北の離島におけるトレイルの分析	一戸 恒人
2	グリーンインフラ評価カルテの作成と熊本市中心市街地の評価に関する研究	會田 彩乃、藤田 直子
3	GIS 講義前の学部学生への GIS 実習～東洋大学 INIAD の例～	横田 達也
4	東日本大震災後の地域出生力の時空間変動	鎌田 健司
5	市区町村シンボル選定種の全国調査結果の傾向と GIS を用いた地域性分析の検討	吉川 慎平、渡部 俊太郎
6	沼津市茶園におけるリモートセンシングの予備的調査	石田 智士、大勝 友晶、小澤 朗人、中野 敬之、亀山 阿由子、安田 泰輔、鈴木 静男
7	大規模経営の農地集積における棲み分け状況	辻 貴志、大山 慶之、石塚 修敬、米澤 千夏、冬木 勝仁

8	UAV 空撮可視光・熱画像データの統合利用による栽培施設の土地環境の評価	岸本 慧大, 本間 雅大, 岩 網林	26	特殊詐欺被害と ATM のおかれした物理的・社会的環境との関連性	大山 智也, 雨宮 護
9	環境情報データベースを活用した福島県の温熱環境評価	平野 勇二郎, 一ノ瀬 俊明	27	犯罪の時空間分析における時間的・空間的集計単位の検討	島田 貴仁, 山根 由子, 齊藤 知範
10	神社の分布から見える時代性とその機能	梶並 純一郎, 高木 圭子	28	HIV 感染症 / エイズの公衆衛生学的対策に対する梅毒と B 型肝炎を代替疾病とした GIS 解析の有用性の検討	今橋 真弓, 金子 典代, 石田 敏彦, 蜂谷 敦子, 岩谷 靖雅, 横幕 能行
11	関東地方における谷津田の分布変化と残存率の推定	Sprague David	29	平成 29 年 7 月九州北部豪雨における GIS を利用した豪雨の表示について一段ボールジオラマとプロジェクトマッピングへ向けてー	森山 聰之, 鈴木 康之
12	全偏波合成開口レーダ取得画像による水稻圃場の抽出	米澤 千夏	30	九州太平洋沿岸地域におけるハザードマップの実態と避難確保計画に関する研究	上田 裕貴, 藤田 直子
13	熊本県成道寺川における環境の変化とホタルの出現個体数の関係	木下 澄香, 森山 聰之, 間々田 夏菜子	31	防災の機能としての都市農業の可能性に関する研究	野見山 奈々, 藤田 直子, 倉田 将幸, 中村 直寿
14	GPS データを用いた都市暑熱リスクの空間統計分析	吉田 崇紘, 山形 与志樹, 村上 大輔	32	災害伝承の収集とグリーンインフラ防災手法への活用	藤田 直子
15	休憩施設の密度と最大継続歩行距離 一東京駅および大手町駅周辺地区を対象にー	薄井 宏行, 桶野 公宏	33	密集市街地における徒歩避難に着目した防災まちづくりワークショップのデザインと実践 —歩行可否予測に基づく道路色分けグループワークを通して—	榎 愛, 安田 晴佳
16	首都圏鉄道路線の列車遅延要因の把握	大島 圭祐, 山本 佳世子	34	災害復興期における住宅系不動産の価格形成要因の空間分析	稻垣 景子, 佐土原 聰
17	利用者の優先条件を考慮した都市型観光地の観光スポット推薦システム	武笠 勇哉, 山本 佳世子	35	高齢特化係数を用いた避難所の充足度の評価方法	赤松 哲也, 山本 佳世子
18	位置情報と購買履歴データを活用した移動販売車の利用実態の分析 -利用場所・商品の特徴に着目して-	関口 達也, 桶野 公宏	36	地震被害等災害予測データによるマンションの耐震改修効果の予測	王尾 和寿, 花里 俊廣, 温井 達也, 藤原 広行, 中村 洋光, 水谷 浩子, 木村 正夫
19	Relationship between the ease of living and medical facility under accessibility アクセシビリティによる医療機関と暮らしやすさの関係性	小林 優一, 河端 瑞貴	37	母子世帯のレジデンシャル・セグリゲーション	安部 由起子, 河端 瑞貴, 柴辻 優樹
20	携帯端末から得られる低頻度測位な人流ビッグデータを用いた通勤・通学の推定及び分析	小林 稔介, 宮澤 聰, 秋山 祐樹, 柴崎 亮介	38	電話帳データを用いた全国の地域クラスタリング	宮本 旺周, 仙石 裕明, 清水 千弘
21	電動アシスト付き自転車バイクシェアの費用距離ー仙台市ダテバイクの場合ー	吉川 淳太, 小松 謙, 磯田 弦, 関根 良平, 中谷 友樹	39	状態空間モデルを用いた小地域における不動産価格推定	高 龍野, 仙石 裕明, 加藤 真大, 宮本 旺周
22	パーソナルデータを利用した個々人の移動快適性指標の検討	種村 京介, 日野 智至, 金杉 洋, 松原 剛, 柴崎 亮介	40	Airbnb pricing and neighborhood characteristics in San Francisco	Luo Yanjie, 河端 瑞貴
23	位置情報型 AR と画像認識型 AR を併用した観光支援システム	佐々木 諒, 山本 佳世子	41	局所的な住宅賃料形成の違いの抽出ー東京都心区を対象とした分析ー	石山 里穂子, 井上 亮, 杉浦 綾子
24	荒川流域における大規模水害を対象とした経済的影響の推定	楊 少鋒, 小川 芳樹, 秋山 祐樹, 柴崎 亮介, 池内 幸司	42	本社間取引データを用いた事業所間取引データの推定	小川 芳樹, 秋山 祐樹, 篠原 豪太, 柴崎 亮介, 関本 義秀
25	InVEST を用いた熊本地震被災地における生態系サービスの評価に関する研究 -複合災害発生後の実態および復興計画実行後の予測-	唐 明暉, 藤田 直子			

43	ふるさと納税の探索的空間データ分析	江端 杏奈, 吉田 崇紘, 爲季 和樹, 濑谷 創, 堤 盛人	62	文化的景観の観点からみた長崎県対馬の“コヤ”的多様性と地域特性に関する研究	小林 秀輝, 藤田 直子
44	渋谷区一部地域における商業施設店舗数と人口の関係	水谷 勇貴, 岡部 篤行	63	ツイートデータを用いた地域イメージの時空間変化に関する研究	渡辺 公次郎, 辻岡 卓
45	東京都区部における母子世帯居住特性の探索的空間データ分析	柴辻 優樹, 河端 瑞貴	64	現代都市における空間構成要素を利用した観光地の魅力づくりに関する研究	西畠 光, 田中 一成
46	旧藩の境界と選挙区—その経路依存性と変動に関する分析	中島 有希大, 鎌原 勇太, 古谷 知之, 清水 唯一朗	65	地域統計データ簡易集計ツールの開発:都市雇用圏統計データの作成を事例として	桐村 喬
47	業務支援に特化したオープンソース GIS の機能拡張事例	坂元 恒一	66	バス停名称を用いた推定寺社位置データの位置精度検証の可能性	相 尚寿, 桐村 喬, 板井 正齊
48	ディープラーニング物体検出アルゴリズムを応用した検出地物の地理空間データ化と差分管理に係る取り組み	小林 裕治, 大島 聰	67	シェアサイクル利用者の GPS 軌跡データを用いた道路利用頻度と道路環境との関係性についての分析	仁平 裕太, 山田 育穂
49	京都地籍図データベースを用いた明治末期の土地所有者構造分析	青木 和人, 矢野 桂司, 武田 幸司			
50	WebGIS を用いた地図パズルシステムの開発	根元 裕樹			
51	街区レベル居住快適性評価指標を利用した土地利用シナリオ分析の提案	馬場 弘樹, 浅見 泰司			
52	住宅団地における未利用地の実態と転用による利活用に関する研究 -福岡市全域における実態と共同農園への展開-	倉田 将幸, 藤田 直子, 野見山 奈々, 中村 直寿			
53	人流ビッグデータを用いた街の賑わいと家賃形成との関係に関する研究	秦 桜蘭, 秋山 祐樹, 小川 芳樹, 柴崎 亮介, 金田 穂高			
54	街区沿道密度を推定する方法に関する考察	服田 帆乃香, 奥貫 圭一			
55	The examination of Gauguin's color preference	服部 恒太, 塚本 章宏, 田中 佳			
56	日本版 Map Warper を用いた旧版地形図の公開	今村 聰, 鎌田 遼, 矢野 桂司, 磯田 弦, 中谷 友樹			
57	職業別電話名簿を用いた近代東京の職業分布に関する研究	石川 和樹, 中山 大地			
58	刊行図に描かれた近世大坂の構図と歪みの分析	塚本 章宏			
59	熊本地震の被災地における神社の被害と立地、利用の変化に関する研究 -熊本県益城町を対象地として-	黄 仁鼎, 藤田 直子			
60	Web API のビッグデータによる宿泊施設の空室状況の時空間的变化—徳島県と新潟県の大規模イベント時について—	澁木 智之			
61	持続的な都市観光地のマネジメントに向けた観光回遊行動の研究	杉本 興運, 太田 慧, 鈴木 祥平			

第 14 回大会優秀発表賞

対象者は本学会の学生会員（年会費完納者）であり、修士号未修得の、口頭発表発表者に限られます。研究（論文）内容や発表技術の優秀者からセッション司会者が受賞候補者を推薦し、学会賞委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者数は特に定めません。

受賞者には賞状を後日送付し、ニュースレター108号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol. 26, No. 2 に発表要旨を掲載（白黒印刷のみ）します。受賞者は11月15日（木）までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

第 7 回ポスターセッション賞

ポスターセッション参加者全員が審査の対象です。審査方法は、郵送（事前登録）・受付（当日受付）でお渡しする審査用紙をご覧下さい。

受賞者には賞状を後日送付し、ニュースレター108号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol. 25, No. 2 に発表要旨を掲載（白黒印刷のみ）します。受賞者は11月15日（木）までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

機器展示 (受付順)

■ ESRI ジャパン株式会社

展示リスト : ArcGIS Desktop / ArcGIS Online /

ESRI ジャパン データコンテンツ/python

展示概要 :

- ・ 次世代デスクトップ GIS である ArcGIS Pro2.1 の機能紹介
- ・ マップの作成・共有・利用を、いつでもどこでも行える環境を提供する ArcGIS Online の活用法
- ・ ArcGIS で活用できるさまざまなジャンルのデータの紹介
- ・ Python スクリプトから地理的データの解析、変換、管理などを実行できる便利な関数の ArcPy の紹介

普段の ArcGIS 製品の利用でお困り事やご相談も受け付けております。お気軽に立ち寄りください。

■ 株式会社古今書院

展示リスト : 『防災・環境のための GIS』

『経済・政策分析のための GIS 入門』ほか GIS 関連書籍
展示概要 :

GIS 書籍の発行点数ナンバー 1 の出版社です。『地理情報科学 GIS スタンダード』など GIS の基本図書、「ArcGIS」「QGIS」「MANDARA」など人気の GIS ソフトの活用マニュアルなど、GIS ビギナーからミドルユーザまで利用目的に応じた関連書籍を展示し、すべて 15%引で販売します。出版企画のご相談も大歓迎です。

■ 朝日航洋株式会社

展示リスト : QGIS

展示概要 :

近年、急速に普及しつつあるオープンソースソフトウェアの地理情報システム QGIS をご紹介いたします。QGIS の使い方がよくわからない方、あるいは、こんなことができないかなどのお悩みがありましたら、お聞かせください。また、QGIS について情報交換したい方、一言いいたい方もぜひお立ち寄りください。

IAG' i シンポジウム報告

2018 年度の IAG' i 国際シンポジウムは 7/1-7/3 に台湾新竹市の明新科技大学で行われた。IAG' i のメンバーの TGO

(Taiwan Group on Earth Observations) が主催した国際学会である 2018 ICEO&SI (International Conference on Earth Observations and Societal Impacts) の中で、IAG' i の講演やセッションが開催される形になった。当学会からは大学教員 3 名と大学院生 6 名が参加し、ICEO&SI を含む全セッションの学生発表賞の口頭発表部門で大野馨子氏 (東工大院生) が選ばれ、ポスター発表部門で西畠光氏 (大阪工大院生) が選ばれた。また、団長として参加した小口高会長が基調講演の一つを担当した。大会には多数の台湾人の他、韓国、ベトナム、インドネシア、オーストラリア、カナダなどからの参加者もあり、夜の懇親会も含めて大いに盛り上がった。



本国際シンポジウムに関連して当学会が募集した若手海外派遣スカラシップには、大野馨子氏（東工大院生）、岸川明弘氏（大阪工大院生）、竹原繭子氏（筑波大院生）、西畠光氏（大阪工大院生）の 4 名が選ばれた（注：当初のスカラシップの対象は、口頭発表の上位 3 名までであったが、ポスター発表賞を受賞した 1 名も GISA からの大きな国際貢献と判断し、7/19 の第 20 回 IT 理事会にて 1 名の追加を決定した）



受賞報告

第 4 代地理情報システム学会会長 岡部篤行氏

2018 年の国際地理学連合 (International Geographical Union) 桂冠名誉賞 (Laureat d' honneur awards) 受賞

国際地理学連合 (IGU) は、1922 年に設立された地理学に関する世界最大規模の学術連合である。その学術連合の「桂冠名誉賞」は、国際的規模で地理学の発展に貢献し、また同連合の活動に顕著な役割を果たした人に与えられる賞で^(注1)、このたび青山学院大学地球社会共生学部教授の岡部篤行氏が受賞することになった。授賞式は 2018 年 8 月 10 日、カナダのケベックで開催される国際地理学連合大会において行われた。

受賞理由^(注2)

岡部篤行教授は、国際地理学連合 (IGU) の日本国委員会 (代表)、IGU の数学的モデル研究委員会 (執行委員)、国際地

理情報科学会議、欧州地理情報システム協会（AGILE）に大きな貢献をした。彼は、IGU 京都国際地理学会議の組織化にも多大な役割を果たし、大きな成功を収めた。また、日本の地理情報システム学会の組織化にも大きな役割を果たし、アジアの地理情報学会を含む国際的な学術交流を大きく推進した。彼は、11の国際的地理学術誌の編集長や編集委員を務めた。彼の著書には、5600^(注3)以上の国際学術誌で引用されている『空間分割』^(注4)、ワールドブック賞^(注5)を得た『地理情報システムを活用したイスラーム地域研究』^(注6)、地理的分析の新開地を開いた『ネットワーク上の空間分析』^(注7)などがある。米国地理学会では、岡部教授を称える集会が行われた^(注8)。彼は、2018年のIGU 桂冠名誉賞を受賞するに相応しい人である。



注1 原文

Nominees for the laureat should have contributed significantly to the advancement of geography at the international scale as well as having played a prominent role in IGU affairs.

注2 原文

Professor Atsuyuki Okabe has contributed greatly to the IGU National Committee (Japanese representative), IGU Mathematical Models Commission (full member), International GIScience Conference, and European GIS Association (AGILE). He played an extraordinary role in organizing Kyoto IGU Conference, which was highly successful, as well as in the GIS Association of Japan, which promoted substantial international exchange, including with other Asian GIS Associations. He has served as an editor or editorial board member of 11 international geographical journals. His books include Spatial Tessellations, which has been cited in more than 5,600 international papers; Islamic Area Studies with GIS was awarded the World Book Prize; and Spatial Analysis along Networks opened a new frontier in geographical analysis. Sessions in honour of Professor Okabe have been held at the AAG. He is a deserving recipient of an IGU Lauréat d'Honneur Award for 2018.

注3

2018年7月21日時点では、Google Scholarで5,973の学術論文に引用と掲示されている。

注4

Okabe, A., Boots, B., Sugihara, K. and Chiu, S. N. (2009) *Spatial Tessellations: Concepts and Applications of Voronoi Diagrams*. Wiley series in Probability and Statistics, Chichester: John Wiley.

注5

The World Award for Book of the Year of the Islamic Republic of Iran, 2006.

注6

Okabe, A. ed. (2004) *Islamic Area Studies with Geographical Information Systems*. London: RoutledgeCurzon.

注7

Okabe, A. and Sugihara, K. (2012) *Spatial Analysis along Networks*. Wiley series in Statistics in Practice. Chichester: John Wiley.

注8

American Association of Geographers, Annual Meeting at San Francisco, April 17-21, 2007

A Theme Issue on Spatial Analysis and GIScience in Honor of Atsuyuki Okabe. *Journal of Geographical Systems*, vol. 11(2), 2009.

委員会報告

■ GIS 資格認定協会

[大伴真吾]

GISCAでは、GIS教育プログラムの認定を行っております。本学会員、本学会の賛助団体の構成員あるいは関連学協会の会員からの申請により、1.過去1年以上申請する教育を実施していること、2.大学の学部以上の教育レベルであること、3.教育内容が地理空間情報分野の知識体系の範囲に入っていることをGISCAで審査します。教育プログラムとして認定されると、向こう5年間、GISCAホームページで公開するとともに、GIS教育認定プログラム参加証等を発行することができます。このプログラムの参加者は、参加証等をGIS上級技術者の申請・更新時に教育実績の証拠として利用することができます。GIS教育認定プログラムの審査は無料で行っておりますので、ぜひこの制度を活用し、有効なGIS教育機会の増加とPRを図っていただきたく存じます。

8月15日時点の認定数は次の通りです。

GIS名譽上級技術者 23名

GIS上級技術者 177名

GIS教育認定プログラム 25件

分科会報告

■ ビジネス分科会

[高阪宏行]

ビジネス分科会に興味をおもちの会員は、メールにてその旨をお知らせください。分科会の今後の活動予定をお送りします。

kohsaka@npo-giti.com

伊理正夫先生を追悼する

[元地理情報システム学会会長 岡部篤行]



本学会の会長を務められました伊理正夫先生が、去る8月13日に永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

私が伊理先生を初めて存じ上げたのは、学部4年生(1969年)の頃で、伊理先生と研究交流をされておられた奥平耕造先生を通してでした。20歳代で10か国ほどの言語を修め、30歳半ばには Academic Press から *Network Flow, Transportation and Scheduling* (1969) の本を出版されるといった卓越した国際的研究業績を聞き知るにあたり、伊理先生は遙か高い雲上の研究者としての存在でした。その先生が、既に1970年代ごろから地理空間情報科学を研究の一テーマとされたことは、本学会にとって誠に幸いだったと思います。

日本の本格的な GIS 開発研究で理論的基礎を築いたのは、建設省(当時)の「都市情報システム」開発研究プロジェクトの中で1974年から行われた「地理的情報システム研究委員会」での GIS 主要概念設計だったと思います。この委員会の委員長が伊理先生であり、先生が主導されてまとめた提言は、理論のみならず社会的にも日本の GIS の方向を大きく決定づけ、かつ国際的にも先駆的なものでした。

伊理先生は、理論を概念設計で終わらすのではなく、計算機で実装するところに力を注いでこられました。その一端に1981年から始まった伊理先生を委員長とする「地理情報処理に関する基本的アルゴリズムの調査・開発」があり、私も参加する幸運に恵まれました。研究会では、伊理先生がにこにこしながらコメントをされるのですが、先生の論理展開は速く、ひとつのフレーズで主語が次々と変わり、それに対応する述語を追いかねいで、しばしばから理解できるといった具合でした。先生の頭の中の論理展開が速いので舌が追いつかないからだったと思います。研究会成果は、伊理正夫監修・腰塚武志編(1986)『計算幾何学と地理情報処理』として出版されています。Preparata and Shamos の *Computational Geometry* の本が1985年に出版されていますから、いかに伊理先生主導の研究が国際的にも先進的だったかが分かります。

1990年代に入り、中央大学で「統合型 GIS」の研究プロジェクトを立ち上げられましたが、そのアイディアは地方自治体向けの GIS に活かされ、GIS の社会的定着化にも力を尽くされています。GIS 学会では、第2代会長を務められ、90年代後半には、来る21世紀を見通し、「新世紀の空間データ基盤の役割」(1998)を示しておられます。またお年をめされてからも本学会の大会で口頭発表をされるなど、GIS の理論と応用に最後までご貢献をしていただきました。

その伊理先生が永眠されたことは大変残念なことであります。これからは、天国で GIS 研究を楽しめていかれることと思います。天国での益々のご活躍をお祈りいたします。

伊理正夫先生 第2代地理情報システム学会会長

(1994年4月1日～1996年3月31日)

岡部篤行先生 第4代地理情報システム学会会長

(1998年4月1日～2000年3月31日)

学会からのお知らせ

■ G空間 EXPO 2018

主催: G空間 EXPO 2018 講演・シンポジウム実行委員会
(GIS学会も委員の一翼を担っています)

会期: 2018年11月15日(木)～17日(土)

会場: 日本科学未来館

詳しくは… <http://www.g-expo.jp/>

■ GIS学会/日本地図学会共催シンポジウム(G空間EXPO内)

「みちびき時代の新ナビゲーションを探る」

みちびき4機体制が実現目前になっておりますが、どのようにナビゲーションの世界が変わっていくのかを、陸海空のナビゲーションの専門家などをお迎えして、パネルディスカッションの形で深掘りしていきます。

日時: 11月17日(土) 13:30～16:30

会場: 日本科学未来館7階 コンファレンスルーム天王星

■ GPS/GNSSシンポジウム2018(協賛)

主催: 一般社団法人 測位航法学会

会期: 2018年10月30日(火)～11月1日(木)

会場: 東京海洋大学

詳しくは… <https://www.gnss-pnt.org/symposium.html>

■ GIS day in 東京 2018(後援)

主催: 首都大学東京 都市環境学部

会期: 2018年12月8日(土)

会場: 首都大学東京南大沢キャンパス

詳しくは… <http://www.comp.tmu.ac.jp/gisday/>

■ 第29回国際地図学会議(後援)

(The 29th International Cartographic Conference)

主催: 第29回国際地図学会議組織委員会

会期: 2019年7月15日(月)～20日(土)

会場: 日本科学未来館、東京国際交流館プラザ平成

詳しくは… <http://icc2019.org/index.html>

■ 事務局休室のお知らせ

学術大会開催に伴い、以下の期間、事務局は休室となります。

メール対応も出来ませんのでご注意ください。

2018年10月18日(木)～22日(月)

通常の業務は10月23日(火)午前10時からです。

2018年8月末現在の個人会員 1113名、 賛助会員 55社

賛助会員

アクリング(株), 朝日航洋(株), アジア航測(株), アドソル日進(株), いであ(株), 株インフォマティクス, ESRI ジャパン(株), NTT タウンページ(株), 愛媛県土地家屋調査士会, 応用技術(株), 大阪土地家屋調査士会, (株)かんこう, 関東甲信越東海GIS技術研究会, (財)岐阜県建設研究センター, 九州GIS技術研究会, 近畿北陸G空間情報技術研究会, (株)こうそく, 国際航業(株), 国土情報開発(株), (株)古今書院, GIS 総合研究所いばらき, ジェイアール西日本コンサルタント(株), (株)ジオテクノ関西, (株)ジオプラン, (株)昭文社, (株)ジンテック, (株)ゼンリン, (株)ゼンリンジョインテリジェンス, (株)谷澤総合鑑定所, 玉野総合コンサルタント(株), 中四国GIS技術研究会, デジタル北海道研究会, 東北GIS技術研究会, (株)ドーン, 長野県GIS協会, (い)いがたGIS協議会, 日本情報経済社会推進協会, 日本スーパー・マップ(株), (財)日本測量調査技術協会, (財)日本地図センター, パシフィックコンサルタント(株), (株)パスコ, 阪神高速技研(株), 東日本総合計画(株), 北海道GIS技術研究会, (株)マップクエスト, (株)松本コンサルタント, 三菱電機(株), 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株), (財)リモート・センシング技術センター
自治体会員: 経済産業省特許庁, 総務省統計局統計研修所, (独)統計センター, 長野県環境保全研究所, 福岡県直方市

学会分科会連絡先一覧

●自治体: 浅野和仁 (大阪府富田林市) 事務局: 青木和人 (あおきgis研究所 Tel 050-5850-3290) E-mail: kazu013057@gmail.com	●地図・空間表現: 若林芳樹 (首都大学東京 Tel 042-677-2601) E-mail: wakaba@tmu.ac.jp
●ビジネス: 高阪宏行 (地理情報技術研究所 Tel 03-5379-5601) E-mail: kohsaka@npo-giti.com	●セキュリティSIG: 内布茂充 (行政書士 内布事務所 Tel 090-2284-4125) E-mail: spcn87q9@royal.ocn.ne.jp
●防災GIS: 畑山満則 (京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333) E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp	●FOSS4G: Venkatesh Raghavan (大阪市立大学) 連絡先: 駿山陽一 (朝日航洋(株) TEL049-244-4032) E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp
●時空間GIS: 吉川耕司 (大阪産業大学 Tel 072-875-3001) E-mail: yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp	●若手分科会: 相尚寿 (東京大学 Tel 04-7136-4302) E-mail: hisaai@csis.u-tokyo.ac.jp
	●IoTとGIS: 岩網林 (慶應義塾大学 Tel 0466-49-3453) E-mail: yan@sfc.keio.ac.jp

地方支部の連絡先一覧

<北海道支部> 支部長: 小樽商科大学 深田秀実 Tel: 0134-27-5399, E-mail: fukada@res.otaru-u.ac.jp	<中国支部> 支部長: 広島修道大学 川瀬正樹 Tel: 082-830-1210, E-mail: kawase@shudo-u.ac.jp
<東北支部> 支部長: 東北大学 井上亮 Tel: 022-795-7478, E-mail: rinoue@tohoku.ac.jp	<四国支部> 支部長: 愛媛大学 Netra Prakash Bhandary Tel: 089-927-8566, E-mail: netra@ehime-u.ac.jp
<北陸支部> 支部長: 新潟大学 牧野秀夫 Tel: 025-262-6749, E-mail: makino@ie.niigata-u.ac.jp	<九州支部> 支部長: 九州大学 三谷泰浩 Tel: 092-802-3399, E-mail: gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp
<中部支部> 支部長: 中部大学 福井弘道 連絡先: 杉田暁 (中部大学) Tel: 0568-51-9894 (内線 5714), E-mail: satoru@isc.chubu.ac.jp	<沖縄支部> 支部長: 琉球大学 町田宗博 E-mail: machida@11.u-ryukyu.ac.jp 連絡先: 澤嶋直彦 (特定非営利活動法人沖縄地理情報システム協議会) Tel: 098-863-7528, E-mail: takushi@okicom.co.jp
<関西支部> 支部長: 大阪工業大学 吉川眞 連絡先: 田中一成 (大阪工業大学) Tel: 06-6954-4293, E-mail: gisa@civil.oit.ac.jp	

■ 編集後記 ■

平成としては最後の夏は地震、異常な高温そして台風・豪雨で終わっていきました。被害を受けられた方々にお見舞い申し上げます。今回の特集の開催地、首都大学東京も名称変更が決まりそうなので、この名称での最後の地理情報システム学会研究発表大会になるかもしれません。

伊理先生のお写真は、25周年記念誌から転載させていただきました。
第3回学術研究発表大会 (1994年10月2日~3日/於工学院大学新宿校舎)、
会長挨拶時のもの (ニュースレター12号)
<http://www.gisa-japan.org/file/gisa25.pdf> です。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

谷口 彰
(特定非営利活動法人 GIS
総合研究所 と 応用技術株式会社)

地理情報システム学会ニュースレター

第107号 ●発行日 2018年10月5日

■発行

一般社団法人 地理情報システム学会

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階

TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org

URL: <http://www.gisa-japan.org/>

■ 弥生雑記 ■

日本の国土面積は全世界の0.25%であるのに対し、自然災害の被害総額は約15~20%を占めるのだという。都市化した地域ほど被害額も大きくなる傾向はあるが、どう考えても、日本が自然災害と常に向き合わざるを得ない国であることは確かであろう。しかも、その自然災害は、台風等の季節的なものだけではない。いつ何時、それが襲ってくるか必ずしも分からぬ地震のような災害もある。明日は我が身、他人事ではないのである。GIS学会は防災学術連携体に所属していることもあり、事務局では災害・防災・減災に関するやりとりがもともと少なくは無いのだが、今年は間断なくそれが続いている。しかしながら意外の感に打たれたのは、これまで避難についての心理的なアプローチが試みられていないかったことだ。西日本豪雨では同じ被災地でも避難した人、避難しなかった人に分かれており、今回初めて避難した(しなかった)理由や避難のきっかけを聞き取り調査する。正常性バイアスが働いたことは言うに及ばず、経験の逆機能が働いた可能性もあるのだという。ハード面が中心だった防災・減災に、今後、ソフト面も加わるのだ。GISが果たす役割は、災害関連以外でも、決して小さくはない。その広がりを見て、聞いて、体験するために、是非、大会にお越しください。お待ちしています。

(学会事務局)